

令和3年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
林産部門

日本の伝統文化の継承のため夫婦二人三脚で取り組む複合的林業経営

○氏名又は名称 杉本 英夫・杉本 淑美

○所在地 福井県福井市

○出品財 経営（林業経営）

○受賞理由

・地域の概要

福井市は、福井県の北部に位置し、冬季は冷温多湿で山沿いの地域では豪雪地帯となるが、夏は晴天が多く気温は高い。地域に根ざした多様な里山利用が継承されており、様々な特用林産物が小規模・分散的に生産されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

英夫氏は、高校卒業後福井県内で製造業に従事していたが、昭和60年に淑美氏と結婚し、平成5年には淑美氏の実家の家業である農林業を継承した。広大な所有山林を有効活用し、スギ林の管理をはじめ、製炭業、養蚕、しいたけ生産、野菜や水稲栽培など様々な産物を夫婦二人三脚で効率良く生産している。淑美氏の父から指導を受けた製炭業は、平成28年には生産量が県内1位となるまでに発展した。

・受賞者の特色

(1) 複合的林業経営による収入の安定化

所有林や地域の広葉樹林から原木調達し、植樹することで安定的な生産を行っている木炭生産については、昨年度は新型コロナウイルスの影響により出荷量が大きく減少した。しかし、様々な産物を組み合わせて生産していたことから、他産物の販売収入によって経営を維持することができ、複合経営の強みを発揮した。

(2) 伝統文化への貢献、地域の需要に即した高品質の農林産物生産

茶の湯に必要な美しい菊炭や、刀鍛冶に不可欠な松炭を生産している。また、北陸唯一の養蚕農家として、日本の在来種「小石丸」を原種とする「玉小石」を飼育し、繭を県内の機織り職人に納入するなど、地域需要に応じた生産品目の拡大に取り組んでいる。さらに、淑美氏の発案により、養蚕の余剰桑葉の新芽を茶葉に加工するなど、新たな製品開発にも努めている。

・普及性と今後の発展方向

炭の生産者と消費者で組織する「福井炭やきの会」において、令和元年までの6年間は会長として、現在は相談役として、生産者の技術向上と消費者へのPRに尽力している。また、行政や法人、林業大学校が開催する研修に講師として指導にあたるなど、製炭技術の継承に取り組んでいる。一方、広葉樹林の資源調査へのドローン導入やバイオ炭の開発事業にも貢献しており、今後も伝統を守りながら、新しい取組に意欲的に着手するなど、都市部から山間部へ回帰した複合的林業経営の先駆的な成功者としての更なる活躍が期待される。